※令和３年度以前入学生用

学校番号	１００５

令和５年度　理科

教科	理科	科目	物理	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	「物理」（数研出版）						
副教材等	物理　理系問題　標準編　第３版（駿台文庫）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・学習はあくまでも主体的に取り組んでください。
・学校独自のプリントで学習します。「問題集」のためのノートも用意してください。
・家庭学習をする際は、疑問に思ったことをメモし、自分で調べたり質問したりするなどしてその都度解決するようにしてください。

２　学習の到達目標

物理的な事物・現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，物理学的に探究する能力と態度を身につける。

また、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を身につけることを目標とする。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日常生活における体験や社会･文化･思想的背景との関連の中で、自ら課題をもって科学的に探求しようとする姿勢の確立。	空間･時間･物体･運動を思考の対象とし、その中に存在する法則性について論理的に理解すること。	実験についての基本的技能を身につけるとともに、多種多様な結果の中から、科学的本質を見極める力をつけること。	空間･時間･物体･運動を考察の対象として認識できていることを踏まえ、物理的な知識や物理法則について、理解できていること。
評価方法	授業における質問の数と内容 定期考査の結果	授業における質問の内容、及び、授業における問いかけに対する解答の内容 定期考査の結果	授業における質問の内容、及び、授業における問いかけに対する解答の内容 実験レポート 定期考査の結果	授業における質問の内容、及び、授業における問いかけに対する解答の内容 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	力と運動	平面内の運動	○	○	○	○	a:様々な円運動、単振動について意欲的に探求しようとする。 b:座標の取り方によって運動をどのように表現するのか考察する。 c:重力加速度の測定と分析を行う。 d:力と円運動･単振動についての基本的関係を理解する。	授業状況 定期考査
		剛体	○	○	○	○		
		運動量の保存	○	○	○	○		
		円運動と万有引力	○	○	○	○		
	熱と気体	気体のエネルギーと状態変化	○	○		○	a:熱と分子運動の関係について意欲的に探求しようとする。 b:分子運動と温度･圧力の関係を考察する。 d:内部エネルギーについての基本法則を理解する。	
二学期	波	波の伝わり方	○	○	○	○	a:数式を使って波について理解しようとする。 b:ドップラー効果や波の干渉について考察する。 c:波の干渉実験について理解。 d:波についての基本法則の理解。	授業状況 定期考査
		音の伝わり方	○	○	○	○		
		光波	○	○	○	○		
	電気と磁気	電場	○	○	○	○	a:電波についての意欲的探求。 b:場の概念、電場と磁場の関係ついて考察する。 c:ローレンツ力、電磁誘導の実験についての理解。 d:ファラデーの法則をはじめ、電場と磁場についての基本法則の理解。	
		電流	○	○	○	○		
		電流と磁場	○	○	○	○		
		電磁誘導と電磁波	○	○	○	○		
三学期	原子	電子と光	○	○		○	a:電子についての意欲的探求。 b:電子などの微粒子の波動性と粒子性について考察する。 d:電子の波動性とそのことによる現象についての理解。	授業状況 定期考査
		原子と原子核	○	○		○		

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現

c:観察・実験の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。